

一人一人の相互のかかわりの中から、学年と学年相互のかかわりの中から、より質の高いものが生まれる学校、一人と集団とがひびき合い高めあうことのできる学校を目指す。

## I 学校教育目標


- ・ めあてを持って学びとる子
- ・ 力を合わせて働く子
- ・ きまりを守り仲良くする子
- ・ すすんで心身をきたえる子

## II 学校経営の方針

### 1 伝統を尊重しながら、本校の特色を生かした創意ある学校経営を推進する。

- ・ 学級・保健室経営を基盤とし小規模校のマイナスをプラスにとらえるという視点から、その特性を生かす。
- ・ 児童養護施設児童とのかかわりを教師の資質向上の機会ととらえ、児童理解に努める。
- ・ 保護者、地域との人間関係を深め、そのかかわりを、教師として、人としての財産とする。

### 2 教職員の相互理解と信頼に基づき、組織体としての協働体制を確かなものにする。

- ・  報告・連絡・相談（担当者と…全職員と…関係者と…保護者等と）  
いつ、誰が、誰にどんな方法で伝えるか（メモで、電話で、会って）  
子どもの言動・保護者や地域の声・教職員の助言等、全てが情報
- ・ 協働 一つの目的達成のために各部署やメンバー間で補完・協力する。（広い守備範囲を）  
共通理解のもとに学校組織の一員としての意識をもって教育活動にあたる。  
低中高特ブロック単位の協力体制を重視し、チームで指導にあたる。

### 3 「教育は人なり」つまり「教師の資質が児童の成長に大きな影響力を持つ」との認識に立ち、自己研鑽に努めると共に教職員研修の充実に努め、専門的資質の向上を図る。

- ・ 研修
  - 校内研修（現職教育、授業研究会、計画的な授業参観・授業公開）
  - 校外研修（他校の授業研究会、先進校視察、指定研修等）
  - 自主研修（自分の課題に沿った書籍等の情報収集、講座・研究会への積極的な参加等）
- ・ 資質の向上 — 課題意識を常にもつ 研修は自分への投資！
- ・ “教師が骨さえ惜しまなければ、よい子が育つ” → 確かな専門性と豊かな人間性

### 4 児童一人一人のよさを認め励ます学級経営を基盤にし、児童との温かい人間関係づくりと人権感覚の育成に努める。（居甲斐のある学級づくり）

- ・ 学級経営 … 児童と本気で向き合い、共に学ぶ姿勢、信頼関係づくり
- ・ 人権感覚 … 言葉遣い（何気ない一言や意図的な一言）、表情、立ち振る舞い、教師の価値観、教師が醸し出すもの全てが子どもを感化し、子どもの人権感覚を育てる。  
“薫陶”の教育 — 教職員は児童にとって大きな教育環境

### 5 教育課程の不断の改善・整備と学習指導の改善・充実に努める。

- ・ Plan→Do→Check→Actionの繰返し を意識した教育活動に努める。  
従来通り（大月小の教育の根底にある不易なもの）と改善すべきものを見極める。
- ・ 教育活動評価（学校評価）
  - 自己評価（教職員の自己評価—学校評価・学級経営録の活用）
  - 学校関係者評価（児童・保護者・学校評議員の評価の活用）
  - 学習参観時の保護者アンケート
- ・ 学力の向上 学力調査等をもとにした実態把握と個に応じた指導の工夫（「わかる、できる」を実感できる授業） **すべての子どもに力を！**

### 6 保護者・地域との連携を図り、地域とともに歩む学校づくりに努める。

- ・ 綿密な連絡体制が信頼関係を築く → 連絡のタイミング・方法・言葉遣い・気配り等、  
保護者と共に子どもを伸ばす姿勢で
- ・ 真摯に保護者・地域の声を聞く → 保護者の意見は自省の契機  
改善へのよい機会としてとらえる
- ・ 「学校は地域の顔」 → 大切なキーワードと意識して、  
地域と連携した教育活動に努める。
- ・ 北中学区小中学校の連携 → 共通の地域を母体とする中学校区の各学校との連携